

【暫定版:2021.5.11】※変更可能性あり
令和3年度 授 業 時 間 割 1年前期

月	日	月								日	火								日	水					日	木					日	金				
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:30 \$	12:50 \$	14:30 \$	16:10 \$		8:50 \$	10:30 \$	12:50 \$	14:30 \$	16:10 \$		8:50 \$	10:30 \$	12:50 \$	14:30 \$	16:10 \$
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		10:20	12:00	14:20	16:00	17:40		10:20	12:00	14:20	16:00	17:40		10:20	12:00	14:20	16:00	17:40
4																									1	医学科オリエンテーション					2	入学式				
	5	医と社会Ⅰ (医療面接・ 身体診察)		人体 構造系 骨学	骨学実習	移動 時間	(教養教育) ※初年次 セミナー	6	医科生物学入門			移動 時間	プレ リサ ー チ セ ※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー	7					8	教養教育				9	教養教育	※初 年 次 教 養 セ ミ ナ ー										
	12							13						14	15	16																				
	19							20	医と社会Ⅰ					21	教養教育			22	23																	
	26							27	医科生物学入門					発生・組織系				28	昭和の日			29	30													
5	3	憲法記念日						4	みどりの日						5	こどもの日				6				7			教養教育	初 セ ミ								
	10	英語		骨学		移動 時間	初 セ ミ	11	医と社会Ⅰ (共修)		発生・組織系	プレ リ サ ー チ セ ミ ナ ー ※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー	12	教養教育	13	14																				
	17			英語	生体分子系			18			発生・組織系		19		20																					
	24			英語				25	医と社会Ⅰ		発生・組織系		26		27	28																				
	6	31	人体構造系 筋学					英語	移動 時間	※ (教 養 教 育) ※ 初 年 次 セ ミ ナ ー	1		医と社会Ⅰ		発生組織系・上皮組織 支持組織		移動 時間	2	教養教育	3	4															
7		英語			8	医と社会Ⅰ	発生組織系・支持組織 筋組織				9	10	11																							
14		英語			15	医と社会Ⅰ					移動	16	17	18																						
21		医と社会Ⅰ			英語	22	医と社会Ⅰ				23	24	25																							
28				29	30	1					2																									
7	5	医と社会Ⅰ		英語	移動 時間	生体分子系	6	医と社会Ⅰ			移動 時間	7	教養教育	8	9																					
	12			医と社会			13					14		15																						
	19			生体分子系			20	試験期間				21		22	海の日			23	スポーツの日																	
	26	試験期間					27					28		29	教養教育			30	教養教育																	
	8	2								3		夏季休業			4	夏季休業			5	夏季休業			6	夏季休業												
9		振替休日				10				11	12				13																					
16						17				18	19				20																					
23		夏季休業				24				25	26				27																					
30						31				1	2				3																					
9	6	試験期間							7	試験期間						8	試験期間			9	試験期間			10	試験期間											
	13															14				15				16				17								

令和3年度 授 業 時 間 割 1年後期

月	日	月								日	火								日	水					日	木					日	金												
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5								
		8:50 〓	10:00 〓	11:10 〓	13:00 〓	14:10 〓	15:20 〓	16:30 〓	17:40 〓		8:50 〓	10:00 〓	11:10 〓	13:00 〓	14:10 〓	15:20 〓	16:30 〓	17:40 〓		8:50 〓	10:00 〓	11:10 〓	13:00 〓	14:10 〓		8:50 〓	10:00 〓	11:10 〓	13:00 〓	14:10 〓		8:50 〓	10:00 〓	11:10 〓	13:00 〓	14:10 〓								
		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10		9:50	11:00	12:10	14:00	15:10								
9	20	敬老の日								21	試験期間								22	試験期間					23	秋分の日					24	試験期間					地域・地 域特 活動報告 会							
	27	人体構造系 脈管		内蔵機能体液系 細胞生理 自律神経 循環器						28	生体分子系		発生組織系 脈管・リンパ		国医ゼミ・熱医ゼミ		29	教養教育					30	教養教育					1	教養教育														
10	4									5							6						7						8															
	11	人体構造系 脈管											12				13						14						15															
	18									19			発生組織系 口腔・消化器				20						21						22															
11	25	人体構造系 内蔵 消化器 呼吸器					防災訓練			26					27	文化の日					28						29																	
	1	人体構造系 内蔵 消化器 呼吸器								2					3						4						5																	
	8						内蔵機能体液系 消化器・呼吸器			9	発生組織系・呼吸器				10	教養教育					11	教養教育					12	教養教育																
	15									16	発生組織系・泌尿器				17						18						19																	
	22	人体構造系 泌尿器 生殖器 内分泌 感覚器		医と 社会		内蔵機能体液系 腎・排泄 酸塩基平衡			23	勤労感謝の日					24												25																	
12	29									30	医と社会Ⅰ (医療面接・ 身体診察)		発生組織系・男性生殖器		熱国 医医 ゼミゼミ		1	教養教育					2	教養教育					3	教養教育														
	6									7			発生組織系・女性生殖器				8						9						10															
	13									14			発生組織系・内分泌				15						16						17															
	20									21			発生組織系・内分泌				22						23						24															
1	27	冬期休業								28	冬期休業								29	冬期休業					30	冬期休業					31	冬期休業												
	3									4									5	教養教育					6	教養教育					7	教養教育												
	10	成人の日								11			発生祖機器系		熱国 医医 ゼミゼミ		12								13																			
	17	人体構造系 末梢神経		内蔵機能体液系 血液 体温調節						18			生化学実習				19								20																			
	24									25									26												27													
2	31									1							2						3						4															
	7	退職教授記念講演会								8							試験期間								9	退職教授記念講演会					10	試験期間					11	建国記念の日						
	14	試験期間								15																											16	試験期間					17	
	21									22									23	天皇誕生日					24						25													
3	28	春季休業								1	春季休業								2	春季休業					3	春季休業					4	春季休業												
	7									8									9						10						11													
	14									15									16						17						18													
	21	春分の日								22									23						24						25													
	28	春季休業								29									30						31																			

医と社会 I

責任者	氏名（教室）	安武 亨（先端医育センター）		
	電話番号	095-819-7987	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
科目英語名	Medicine and Society 1		

1. 授業の概要及び位置づけ

医学生として、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、チーム医療および医療に必要な患者とのコミュニケーションスキルを学ぶ。また、病院やリハビリテーション施設での体験実習を通して、医師の立場や病める人の立場から見た医療・リハビリテーション・介護について実感する。さらに地域包括ケアシステムを理解し、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。その他にも、情報収集法の会得などの学び方を学び、医学書にはない“大切なこと”を学ぶ。

2. 授業到達目標

1. 自らの知識・能力を振り返り、新たな学習の必要性を認知して、信頼できる情報を得て、その後の学習や診療に活かすことができる。
2. 個々の事例が生命倫理・医療倫理上の問題であるか否かを判断・認識し、対応できる。
3. 患者の権利や医師の使命・義務・裁量権に基づいた判断ができる。
4. 医療の現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係を確立できる。
5. チーム医療の重要性を理解し、関連専門職との連携を図ることができる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1) 実習
 - (1) 学内演習（保健学科と共修）
 - (2) 病院見学 長崎大学病院医局
 - (3) 学外施設見学 リハビリテーション施設（保健学科と共修）
- 2) 医学テーマ
 - (1) チーム医療・ワークショップ（保健学科と共修）
 - (2) 実習の心得：病院オリエンテーション（保健学科と共修）
 - (3) プロフェッショナリズム
 - (4) 地域包括ケアシステム
 - (5) 地域医療
 - (6) 臓器移植・再生医療
 - (7) 熱帯医学
 - (8) 対人関係
 - (9) プライマリヘルスケア
 - (10) グローバルヘルス
 - (11) 臨床倫理
 - (12) 図書館の利用法
 - (13) 栄養学
 - (14) 医療面接・身体診察

4. 教科書・教材・参考書

適宜LACSに掲載またはプリントを配付する。

5. 成績評価の方法・基準等

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。打刻（打刻可能な講義室の場合）、その他の方法による出席確認、レポートなどの提出物がある場

合の提出期限までの提出・受理のどれが欠けても欠席とする。以上の基準で、授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

6. 事前・事後学修の内容

LACSに適宜掲載

7. 教員名

安武 亨（先端医育センター）、田中 邦彦（先端医育センター）、江川 亜希子（先端医育センター）、北山 素（先端医育センター）、濱崎 景子（IR室兼先端医育センター）、永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、川尻 真也（地域医療学）、野中 文陽（離島医療研究所）、森田 公一（熱帯医学研究所）、有吉 紅也（熱帯医学研究所）、奥村 順子（熱帯医学研究所）、篠原 一之（神経生理学）、有馬 和彦（公衆衛生学）、江藤 宏美（保健学科）、黒田 裕美（保健学科）、森藤 香奈子（保健学科）、坂本 淳哉（保健学科）、東 登志夫（保健学科）、澤井 照光（保健学科）、井口 茂（保健学科）、中尾 一彦（病院長）、高畠 英昭（リハビリテーション部）、柳原 克紀（臨床検査医学）、三浦 清徳（産婦人科）、宮本 俊之（外傷センター）

8. 備考

- ・学外実習については、オリエンテーションを行い、実施要項に従う。
- ・行動科学分野責任者：青柳 潔、有馬 和彦

行動科学分野 講義一覧

学年	科目名	授業内容
1	医と社会Ⅰ	行動科学入門
1	医と社会Ⅰ	行動と脳
1	医と社会Ⅰ	行動とライフサイクル
1	医と社会Ⅰ	行動心理学における学習理論
2	医と社会Ⅱ	認知の情報処理
2	医と社会Ⅱ	行動医学と生物統計学
2	医と社会Ⅱ	医療現場におけるコミュニケーション
3	医と社会Ⅲ	動機づけ面接
3	医と社会Ⅲ	認知行動療法
3	医と社会Ⅲ	行動変容・糖尿病

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	D
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	月	1	ようこそ先輩	ようこそ先輩	臨床検査医学 柳原 克紀	4 講
4	5	月	2	医療面接・身体診察	大学での学び	先端医育センター 安武 亨	4 講
4	12	月	1	医療面接・身体診察	はじめての医療面接	安武、永田、北山、濱田	4 講
4	12	月	2	医療面接・身体診察	はじめての身体診察、感染防御について	感染防御教育センター 泉川 公一	4 講
4	19	月	1	医療面接・身体診察	はじめての医療面接	安武、高山、大園、濱田、江川	4 講
4	19	月	2	医療面接・身体診察	はじめての身体診察	安武、高山、北山、大園、濱田、江川	4 講
4	20	火	4	未定			オンライン
4	20	火	5	国際医療	熱帯医学	熱帯医学研究所 森田 公一	オンライン
4	26	月	1	医療面接・身体診察	はじめての身体診察	安武、永田、高山、北山、大園 濱田、江川	4 講
4	26	月	2	医療面接・身体診察	はじめての医療面接、地域で求められる医師について	地域包括ケア教育センター 永田 康浩	4 講
5	11	火	1～3	保健学科共修	授業ガイダンス クライアントの理解と現代医療を支える 医療専門職の役割 (1) (2)	地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
5	18	火	1～3	保健学科共修	クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職の役割 (3) ー病院見学実習へ向けてー 1.先輩からのメッセージ (医学科、看護、理学、作業) 2.病院内における接遇 自分が目指したい医師・看護師・理学療法士・作業療法士像 (実習グループの交流)	地域医療学・総合診療科 地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
5	25	火	1	行動科学	行動科学入門	公衆衛生学 有馬 和彦	オンライン
5	25	火	2	行動科学	行動と脳	神経生理学 篠原 一之	オンライン
5	25	火	3	行動科学	行動とライフサイクル	神経生理学 篠原 一之	オンライン
6	1	火	1～2	生涯学習	図書館ガイダンス		CBT室
6	8	火	1	栄養学	常識？臨床の現場から栄養学の基礎	高度救命救急センター 泉野 浩生	2 講
6	8	火	2	ようこそ先輩	骨を診るコツ	外傷センター 宮本 俊之	2 講
6	15	火	1～3	保健学科共修	学外施設実習オリエンテーション	地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
6	15	火	4	社会と医学・医療	プライマリヘルスケア	長崎県対馬病院 八坂 貴宏	オンライン
6	15	火	5	基本的資質・能力	病院見学オリエンテーション「大学病院の歩き方」	先端医育センター 安武 亨	オンライン
6	21	月	1	ようこそ先輩	生命の誕生と医療	産婦人科 三浦 清徳	オンライン
6	21	月	2	臨床倫理	臨床倫理入門	廣橋病院 荒木 利卓	オンライン
6	22	火	1～6	実習	学外施設見学／大学病院医局見学	先端医育センター 地域包括ケア教育センター 保健学科	ー
6	29	火	1～6	実習	学外施設見学／大学病院医局見学	先端医育センター 地域包括ケア教育センター 保健学科	ー
7	5	月	1	基本的資質・能力	医師のキャリアパスとプロフェッショナルリズム	医療教育開発センター 松島 加代子	オンライン
7	5	月	2	行動科学	行動心理学における学習理論	保健・医療推進センター 小川 さやか	オンライン
7	6	火	1～3	保健学科共修	ワークショップ：これまでの講義・実習を踏まえた 「望ましいチーム医療とは何か」	地域包括ケア教育センター 保健学科	オンライン
7	6	火	4	国際医療	熱帯医学とグローバルヘルス	熱帯医学研究所 有吉 紅也	オンライン
7	6	火	5	国際医療	熱帯医学とグローバルヘルス	熱帯医学研究所 有吉 紅也・奥村 順子	オンライン
7	12	月	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	5年生	4 講
7	13	火	1	栄養学	嚥下と経口摂取	摂食・嚥下リハビリテーションセンター 久松 徳子	オンライン
7	13	火	2	医学知識と問題対応力	PBLとはなにか？	先端医育センター 田中 邦彦	オンライン
7	13	火	3	基本的資質・能力	対人関係	活水女子大学 永田 耕司	オンライン
7	13	火	4	ようこそ先輩	ようこそ先輩	消化器内科 宮明 寿光	オンライン
7	13	火	5	先進医学	臓器移植・再生医療	移植・消化器外科 江口 晋	オンライン
11	29	月	3	ようこそ先輩	ようこそ先輩	5年生	2 講
11	30	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
11	30	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講
12	7	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
12	7	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講
12	14	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
12	14	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講
12	21	火	1	医療面接・身体診察	医療面接入門	未定	4 講
12	21	火	2	医療面接・身体診察	身体診察入門	未定	4 講

人体構造系 I

責任者	氏名（教室）	弦本 敏行（肉眼解剖学（解剖学第二））		
	電話番号	7021	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human Body Structure 1		

1. 授業の概要及び位置づけ

人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を体系的に習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、骨学実習は骨の構造を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

2. 授業到達目標

人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

骨格系、筋系、脈管系、内臓・感覚器系、末梢神経系の講義および骨学実習を行う。

4. 教科書・教材・参考書

★グレイ解剖学（第4版） 塩田浩平 他訳 エルゼビア・ジャパン
 ★ネッター解剖学アトラス（第6版） 相磯貞和 訳 南江堂
 骨学実習の手びき 寺田春水、藤田恒夫 南山堂
 分担解剖学1（総説・骨学・筋学） 小川鼎三、森 於菟他 金原出版
 分担解剖学2（脈管学・神経系） 平沢興 他 金原出版
 分担解剖学3（感覚器学・内臓学） 小川鼎三 他 金原出版
 （★は教科書、必携）

5. 成績評価の方法・基準等

骨格系、筋系、脈管系、内臓・感覚器系についての筆答試験および骨学についての実習試験を行い、総合的に評価する

- ・受験資格 講義：2/3以上出席、実習：原則として皆出席
 - ・分野と配点 骨学実習—50点、骨格系—50点、筋系—50点、脈管系—50点 内臓・感覚器系—100点、末梢神経系—50点
 - ・試験と評価
- 本試験：分野毎に可否を評価
 ○再試験（1回）：本試験の不合格分野のみを受験
 再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する

6. 事前・事後学修の内容

【予習】LACSに事前にアップロードしているプリントの範囲の教科書該当部分を学習しておいてください。（1h）

【復習】プリントの内容と講義ノートとを、教科書を参考にしながら理解をさらに深めてください。（1h）

7. 教員名

弦本 敏行（肉眼解剖学分野）、佐伯 和信（肉眼解剖学分野）、高村 敬子（肉眼解剖学分野）、遠藤 大輔（肉眼解剖学分野）、村井 清人（肉眼解剖学分野）

8. 備考

- ・毎時間、教科書（グレイ解剖学）を必ず持参すること。
- ・骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておくこと。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	D
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

人体構造系 I

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	5	月	3	骨学 1	骨学総論	肉眼解剖・弦本	4 講
4	5	月	4～5	骨学実習 1	全身骨格の概観	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
4	12	月	3	骨学 2	上肢の骨・脊椎	肉眼解剖・弦本	4 講
4	12	月	4～5	骨学実習 2	上肢の骨・脊椎の観察	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
4	19	月	3	骨学 3	下肢の骨・胸郭	肉眼解剖・弦本	4 講
4	19	月	4～5	骨学実習 3	下肢の骨・胸郭の観察	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
4	26	月	3	骨学 4	頭蓋①	肉眼解剖・佐伯	4 講
4	26	月	4～5	骨学実習 4	頭蓋の観察①	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
5	10	月	3	骨学	頭蓋②	肉眼解剖・佐伯	2 講
5	10	月	4～5	骨学実習 5	頭蓋の観察②	肉眼解剖・弦本、佐伯、高村、遠藤、村井	実 1 ・実 2
5	24	月	1	筋学 1	筋学総論	肉眼解剖・佐伯	オンライン
5	24	月	2	筋学 2	頭頸部の筋	肉眼解剖・佐伯	オンライン
5	31	月	1	筋学 3	胸腹部の筋	肉眼解剖・佐伯	オンライン
5	31	月	2	筋学 4	背部の筋	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	7	月	1	筋学 5	上肢の筋①	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	7	月	2	筋学 6	上肢の筋②	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	14	月	1	筋学 7	下肢の筋①	肉眼解剖・佐伯	オンライン
6	14	月	2	筋学 8	下肢の筋②	肉眼解剖・佐伯	オンライン
9	27	月	1	脈管学 1	脈管学総論、心臓①	肉眼解剖・弦本	2 講
9	27	月	2	脈管学 2	心臓②	肉眼解剖・弦本	2 講
9	27	月	3	脈管学 3	心臓③	肉眼解剖・弦本	2 講
10	4	月	1	脈管学 4	動脈系①	肉眼解剖・高村	2 講
10	4	月	2	脈管学 5	動脈系②	肉眼解剖・高村	2 講
10	4	月	3	脈管学 6	動脈系③	肉眼解剖・高村	2 講
10	11	月	1	脈管学 7	動脈系④	肉眼解剖・高村	1 講
10	11	月	2	脈管学 8	静脈系①	肉眼解剖・高村	1 講
10	18	月	1	脈管学 9	静脈系②	肉眼解剖・高村	2 講
10	18	月	2	脈管学 1 0	胎児循環、リンパ系	肉眼解剖・高村	2 講
10	18	月	3	内臓学 1	内臓学総論・腹膜	肉眼解剖・弦本	2 講
10	25	月	1	内臓学 2	消化器系①	肉眼解剖・弦本	1 講
10	25	月	2	内臓学 3	消化器系②	肉眼解剖・弦本	1 講
10	25	月	3	内臓学 4	消化器系③	肉眼解剖・弦本	1 講
11	1	月	1	内臓学 5	消化器系④	肉眼解剖・弦本	2 講
11	1	月	2	内臓学 6	消化器系⑤	肉眼解剖・弦本	2 講
11	8	月	1	内臓学 7	消化器系⑥	肉眼解剖・弦本	2 講
11	8	月	2	内臓学 8	消化器系⑦	肉眼解剖・弦本	2 講

人体構造系Ⅰ

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	8	月	3	内臓学 9	呼吸器系①	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	15	月	1	内臓学 1 0	呼吸器系②	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	15	月	2	内臓学 1 1	呼吸器系③	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	15	月	3	内臓学 1 2	呼吸器系④	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	22	月	1	内臓学 1 3	泌尿器系①	肉眼解剖・高村	2 講
11	22	月	2	内臓学 1 4	泌尿器系②	肉眼解剖・高村	2 講
11	29	月	1	内臓学 1 5	男性生殖器系①	肉眼解剖・佐伯	2 講
11	29	月	2	内臓学 1 6	男性生殖器系②	肉眼解剖・佐伯	2 講
12	6	月	1	内臓学 1 7	女性生殖器系①	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	6	月	2	内臓学 1 8	女性生殖器系②	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	6	月	3	内臓学 1 9	女性生殖器系③、会陰	肉眼解剖・佐伯	1 講
12	13	月	1	内臓学 2 0	内分泌器系	肉眼解剖・弦本	2 講
12	13	月	2	内臓学 2 1	感覚器系	肉眼解剖・弦本	2 講
1	17	月	1	末梢神経学 1	末梢神経総論	肉眼解剖・弦本	2 講
1	17	月	2	末梢神経学 2	脊髄神経①	肉眼解剖・弦本	2 講
1	17	月	3	末梢神経学 3	脊髄神経②	肉眼解剖・弦本	2 講
1	24	月	1	末梢神経学 4	脊髄神経③	肉眼解剖・弦本	2 講
1	24	月	2	末梢神経学 5	脳神経①	肉眼解剖・弦本	2 講
1	24	月	3	末梢神経学 6	脳神経②	肉眼解剖・弦本	2 講
1	31	月	1	末梢神経学 7	脳神経③	肉眼解剖・弦本	2 講
1	31	月	2	末梢神経学 8	脳神経④	肉眼解剖・弦本	2 講
1	31	月	3	末梢神経学 9	自律神経	肉眼解剖・弦本	2 講

生体分子系

責任者	氏名（教室）	伊藤 敬（生化学）		
	電話番号	7037	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 13:00～17:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
科目英語名	Biochemistry		

1. 授業の概要及び位置づけ

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。さらに講義の内容の一部は実習により再確認する。実験・学習に際しての心構え・態度を養い、また実験結果のまとめ方を学ぶ。実習には予習が不可欠であり、各項目の内容等については、予め各担当教官からの説明があるが、実習の手引を熟読して内容を理解した上で実験を行うこと。

2. 授業到達目標

生化学の基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。関連した自習に関して実験項目は各担当教官が設定した目標に従い、計画されているが、学生個々がこの項目の実験を行うことにより、何を学び、何を修得するのか、目標を定め実験することを目指す。

3. 授業内容（講義・実習項目）

次の項目について講義を行う。

(1)生命に必要な元素 (2)有機化合物 (3)化学反応論 (4)有機電子論 (5)不飽和炭化水素
(6)医薬品の化学 (7)生体分子(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸) (8)酵素の構造と機能
(9)代謝総論 (10)糖質の代謝 (11)脂質の代謝 (12)ヌクレオチドの代謝 (13)アミノ酸の代謝
(14)ポルフィリンの代謝 (15)臓器に特有な生化学

4. 教科書・教材・参考書

人体の正常構造と機能 日本医事新報社

ヴォート生化学上下(3版) 村松正實 訳 東京化学同人

ヴォート基礎生化学(3版) 村松正實 訳 東京化学同人

5. 成績評価の方法・基準等

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とし成績評価とする。実習に関してはレポート、実習状況、出欠状況等を総合して評価する。生化学実習は生化学試験受験のための必修課題である。

6. 事前・事後学修の内容

資料による予習復習、関連する項目を教科書により復習すること

7. 教員名

伊藤 敬(医学部生化学)、中川 武弥(医学部生化学)、米田 光宏(医学部生化学)、奥田 晶彦(埼玉医科大学)、井上 聡(東京都健康長寿医療センター研究所)、宮西 隆幸(環境科学部)、上田 篤志(薬学部 薬科学科)、齋藤 義紀(薬学部 薬科学科)

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	17	月	4	生命に必要な元素とその振舞い	原子の電子配置、化学結合と混成起動	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	17	月	5	有機化合物の多様性	立体構造の表示と異性体の分類、命名	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	24	月	4	有機化合物の振舞い	電気陰性度、酸性度、共鳴、芳香族性	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	24	月	5	化学反応論	結合エネルギーと遷移状態、速度支配と熱力学支配、反応中間体	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	31	月	4	有機電子論	電子の流れ図の書き方と考え方、反応の分類、極性反応、ラジカル反応	薬学部・上田 篤志	オンライン
5	31	月	5	不飽和炭化水素の化学	アルケン、アルキン、芳香族化合物	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	7	月	4	含酸素有機化合物の化学	アルコール、エーテル、カルボニル化合物	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	7	月	5	含窒素有機化合物の化学	アミン、複素環化合物	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	14	月	4	生体エネルギー学の基礎(1)	エネルギー学と熱力学	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	14	月	5	生体エネルギー学の基礎(2)	生物学的酸化還元反応	薬学部・齋藤 義紀	オンライン
6	21	月	4	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	オンライン
6	21	月	5	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	オンライン
6	28	月	4	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	オンライン
6	28	月	5	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	オンライン
7	5	月	4	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	オンライン
7	5	月	5	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	オンライン
7	12	月	4	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	2 講
7	12	月	5	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成グリコーゲンの代謝	生化学・伊藤	2 講
7	19	月	4	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	オンライン
7	19	月	5	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	オンライン
9	28	火	1	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤	2 講
9	28	火	2	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	2 講
10	5	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤	2 講
10	5	火	2	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	2 講
10	12	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤	1 講
10	12	火	2	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	1 講
10	19	火	1	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤	2 講
10	19	火	2	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	2 講
10	26	火	1	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	2 講
10	26	火	2	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成分解と再利用	生化学・伊藤	2 講
11	2	火	1	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤	2 講
11	2	火	2	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	2 講
11	9	火	1	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	2 講
11	9	火	2	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	2 講
11	16	火	1	ゲノム医学	未分化幹細胞維持の機構	埼玉医大・奥田	2 講
11	16	火	2	ゲノム医学	エストロゲン受容体と癌化	埼玉医大・井上	2 講
1	18	火	4	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	18	火	5	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	18	火	6	生化学実習	実習に関する講義と説明	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	25	火	4	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	25	火	5	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
1	25	火	6	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
2	1	火	4	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
2	1	火	5	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実 1
2	1	火	6	生化学実習	2. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、中川、米田	実 1

発生・組織系

責任者	氏名（教室）	柴田 恭明（組織発生解剖学（解剖学第三））		
	電話番号	7027	e-mail	siva@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～18:00		

対象年次・学期	1年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
科目英語名	Human development and Histology		

1. 授業の概要及び位置づけ

医師となるために必要とされる正常人体組織学と発生学の基礎知識を修得する。それらの知識と組織標本観察力は、病理組織学を始め後に続いて修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学および組織学の知識のエッセンスを伝えたい。

2. 授業到達目標

本講義により顕微鏡像から組織・器官を特定でき、その形態的特徴を適切な用語を用いて説明できることを到達目標とする。また、各器官の発生学についても説明できることとする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

発生学および組織学総論・各論の講義を行う。講義と平行して組織学の実習を行い、実習内容を必要に応じてチェックする。講義はオンラインもしくは第2講義室、第4講義室で行い、実習は第1実習室と第2実習室で行う。

4. 教科書・教材・参考書

<教科書>

カラーアトラス機能組織学（原著第2版） J. B. Kerr 医歯薬出版 11,000円

標準組織学 総論（5版） 原著：藤田 尚男、藤田 恒夫 改訂：岩永 敏彦 医学書院 9,020円

標準組織学 各論（5版） 原著：藤田 尚男、藤田 恒夫 改訂：岩永 敏彦、石村 和敬 医学書院 12,100円

<参考書>

The Developing Human: Clinically Oriented Embryology(11版) K. L. Moore & T. V. N. Persuad Saunders 12,749円

標準細胞生物学（2版） 石川春律、近藤尚武、柴田洋三郎 編 医学書院 5,940円

ラングマン人体発生学（11版） T. W. Sadler メディカル・サイエンス・インターナショナル 9,240円

ムーア人体発生学（8版） K. L. Moore 医歯薬出版 13,200円

永遠の不死：精子形成細胞の生物学 小路武彦 編 サイエンス社 2,420円

5. 成績評価の方法・基準等

成績の評価は、学期末に行うカラスライドを用いたペーパーテストに実習参加態度を加味し、最終合否判定を行う。また、LACSに掲げる小テストの達成状況を成績評価に加味する。なお、期末試験の受験には講義及び実習時間数の2/3以上の出席が必要でありこれに満たない場合は失格となる。

ペーパーテストは発生学分野30点、組織学講義分野30点、組織学実習分野40点の100点満点とし、合計点が60点以上で、3分野中2分野の得点が60%以上、1分野の得点が45%以上である場合を合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

6. 事前・事後学修の内容

講義・実習の資料および小テストを順次LACSへアップロードする。自主学習の指定した時間帯は実習室を開放するので各自で予習・復習に活用すること。また、LACSに掲げる小テストに

関しては全問正解するまで完遂すること。小テストの達成状況は試験の成績評価に加味する。

7. 教員名

柴田 恭明（解剖学第三）、松本 弦（解剖学第三）、村井 清人（解剖学第二）、大庭 伸介（口腔解剖学第二）、西野 友哉（第二内科）、牟田 久美子（第二内科）、江島 邦彰（非常勤講師（福岡青洲会病院））、進 正志（非常勤講師（崇城大学））、菱川 善隆（非常勤講師（宮崎大学））

8. 備考

授業・実習においては可及的に合理的配慮等のサポートをいたします。特に組織標本スライドでは、赤橙色・青紫色の染色が用いられます。判別が困難な学生はスタッフに申し出て下さい。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	27	火	4	1. 配偶子形成	・体細胞分裂と減数分裂 ・配偶子の発生	解剖3・柴田	オンライン
4	27	火	5	1. 配偶子形成	・形態学的変化	解剖3・柴田	オンライン
5	11	火	4	2. 排卵から着床まで		解剖3・柴田	オンライン
5	11	火	5	3. 2層性胚盤	・三胚葉誘導 ・2か月中の外形	解剖3・柴田	オンライン
5	18	火	4	4. 3層性胚盤		解剖3・柴田	オンライン
5	18	火	5	5. 胚子期		解剖3・柴田	オンライン
5	25	火	4	6. 胎児期	・胎児の発生	非常勤・江島	オンライン
5	25	火	5	7. 体腔と漿膜	・体腔の形成	非常勤・江島	オンライン
6	1	火	3	細胞・組織の概念 上皮組織	・分類・上皮細胞間の特殊分化 ・腺（唾液腺）	解剖3・柴田	2講
6	1	火	4	実習説明	諸注意、顕微鏡引き渡し	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	1	火	5	上皮組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	1	火	6	上皮組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	8	火	3	支持組織、筋組織	・結合組織・軟骨 ・平滑筋・骨格筋・心筋	解剖3・柴田	2講
6	8	火	4	支持組織、筋組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	8	火	5	支持組織、筋組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
6	8	火	6	支持組織、筋組織	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実1・実2
9	28	火	3	脈管系	・心臓脈管の発生・血液 ・毛細血管・動脈・静脈・心臓	解剖3・柴田	2講
9	28	火	4	脈管系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
9	28	火	5	脈管系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
9	28	火	6	脈管系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	5	火	3	リンパ性器官	・リンパ性器官の発生・リンパ ・リンパ節・脾臓・胸腺	非常勤・進	2講
10	5	火	4	リンパ性器官	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・進	実2
10	5	火	5	リンパ性器官	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・進	実2
10	5	火	6	リンパ性器官	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・進	実2
10	19	火	3	消化器系（口腔）	・口腔・歯・唾液腺	口腔解剖2・大庭	2講
10	19	火	4	消化器系（口腔）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	19	火	5	消化器系（口腔）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	19	火	6	消化器系（口腔）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
10	26	火	3	消化器系（Ⅰ）	・消化管の発生・咽頭 ・食道・胃・小腸・大腸	非常勤・菱川	2講
10	26	火	4	消化器系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・菱川	実2
10	26	火	5	消化器系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・菱川	実2
10	26	火	6	消化器系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・菱川	実2
11	2	火	3	消化器系（Ⅱ）	・肝臓・胆嚢の発生・肝臓と胆嚢 ・膵臓の発生・膵臓	解剖3・柴田	2講

発生・組織系

(1年次・通年)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
11	2	火	4	消化器系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	2	火	5	消化器系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	2	火	6	消化器系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	9	火	3	呼吸器系	・呼吸器系の発生 ・鼻腔・喉頭・気管・肺	解剖3・柴田	2講
11	9	火	4	呼吸器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	9	火	5	呼吸器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	9	火	6	呼吸器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	16	火	3	泌尿器系	・泌尿器系の発生 ・腎臓・尿管・膀胱・尿道	内科2・西野／牟田	2講
11	16	火	4	泌尿器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	16	火	5	泌尿器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	16	火	6	泌尿器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	30	火	3	男性生殖器系	・男性生殖器系の発生 ・精巣・精路とその付属腺	解剖3・柴田	4講
11	30	火	4	男性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	30	火	5	男性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
11	30	火	6	男性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	7	火	3	女性生殖器系	・女性生殖器の発生・卵巣・卵管 ・子宮・膣・外陰部・胎盤・乳腺	非常勤・江島	4講
12	7	火	4	女性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・江島	実2
12	7	火	5	女性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・江島	実2
12	7	火	6	女性生殖器系	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井 非常勤・江島	実2
12	14	火	3	内分泌系（Ⅰ）	・下垂体・上皮小体・甲状腺	解剖3・柴田	4講
12	14	火	4	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	14	火	5	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	14	火	6	内分泌系（Ⅰ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	21	火	3	内分泌系（Ⅱ）	・松果体・副腎・消化管の内分泌 ・パラガングリオン	解剖3・柴田	4講
12	21	火	4	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	21	火	5	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
12	21	火	6	内分泌系（Ⅱ）	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
1	11	火	4	総まとめ	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
1	11	火	5	総まとめ	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2
1	11	火	6	総まとめ	実習	解剖3・柴田、松本 解剖2・村井	実2

内臓機能・体液系 I

責任者	氏名（教室）	井上 剛（生理学第一（内臓機能生理学））		
	電話番号	7031	e-mail	ts-inoue@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	3.5
科目英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

1. 授業の概要及び位置づけ

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。当科目では、教科書の図説明に留まらず、臨床との関連性を重視したオリジナルな生理学講義を提供する。

2. 授業到達目標

生理学総論および臓器別各論を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1) 細胞生理学
- 2) 自律神経
- 3) 内分泌・代謝
- 4) 循環器
- 5) 呼吸器
- 6) 消化器
- 7) 腎・排泄
- 8) 酸・塩基平衡
- 9) 血液
- 10) 体温調節

4. 教科書・教材・参考書

ギャノン生理学 25版 岡田泰伸（監修）他 丸善出版 10,800円 またはその原著26版 9,136円
 ガイトン生理学 第13版 石川義弘（翻訳）他、エルゼビア・ジャパン株式会社 16,500円 またはその原著14版 19,932円
 標準生理学 第9版 福田 康一郎 他 医学書院 13,200円
 人体の正常構造と機能 第4版 坂井 建雄 他 日本医事新報 19,800円

上記教科書を中心に、パワーポイントで講義する。長崎大学LACSにアクセス、講義用スライド・資料をダウンロードする。紙での配布は行わない。

□ 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

5. 成績評価の方法・基準等

未定。本科目が始まる令和3年9月に、成績評価の方法・基準等を発表する。

6. 事前・事後学修の内容

事前に講義スライド・資料を準備する。事後学修にて、教科書を参照して復習を行い、講義スライド・資料内容を十分に理解する。

7. 教員名

井上 剛（内臓機能生理学）、辻 幸臣（内臓機能生理学）、中村 恭菜（内臓機能生理

学)、光武 範吏(原研医療)、世羅 至子(長崎県立大学)、樽見 航(神経生理学)、児島 将康(久留米大)

8. 備考

本年度、授業計画(担当教員及び内容)が大きく変更される可能性がある。履修に際し、事前の変更通知に十分留意すること。

9. ディプロマポリシー(レベルマトリクス)との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	D

内臓機能・体液系 I

(1年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
9	27	月	4	細胞生理1	細胞生理学(1)	内臓機能生理学・井上	2講
9	27	月	5	細胞生理2	細胞生理学(2)	内臓機能生理学・井上	2講
9	27	月	6	自律神経1	自律神経求心性神経と内臓-内臓反射	内臓機能生理学・井上	2講
10	4	月	4	自律神経2	自律神経系とストレス反応	内臓機能生理学・井上	2講
10	4	月	5	循環器1	心臓の構造・心筋の構造・イオンチャネル	内臓機能生理学・辻	2講
10	4	月	6	循環器2	心臓の自動性・膜電位・活動電位	内臓機能生理学・辻	2講
10	11	月	4	循環器3	心筋の興奮伝導と収縮の連関	内臓機能生理学・辻	2講
10	11	月	5	循環器4	ポンプとしての心臓	内臓機能生理学・辻	2講
10	11	月	6	循環器5	心電図(1)	内臓機能生理学・辻	2講
10	18	月	4	循環器6	心電図(2)	内臓機能生理学・辻	2講
10	18	月	5	循環器7	血管の機能・構造	内臓機能生理学・辻	2講
10	18	月	6	循環器8	静脈・リンパ系、微小循環、局所循環	内臓機能生理学・辻	2講
10	25	月	4	循環器9	心臓中枢、血管中枢、循環反射、心血管内分泌	内臓機能生理学・辻	1講
10	25	月	5	消化器1	消化器総論	原研医療・光武	1講
10	25	月	6	消化器2	上部消化管	原研医療・光武	1講
11	1	月	3	消化器3	下部消化管	原研医療・光武	2講
11	1	月	4	消化器4	肝胆膵	原研医療・光武	2講
11	8	月	4	内分泌・代謝1	内分泌総論	原研医療・光武	2講
11	8	月	5	内分泌・代謝2	副腎(視床下部一下垂体一副腎)	神経生理・樽見	2講
11	8	月	6	内分泌・代謝3	性腺(視床下部一下垂体一性腺)	神経生理・樽見	2講
11	15	月	4	内分泌・代謝4	甲状腺(視床下部一下垂体一甲状腺)	原研医療・光武	2講
11	15	月	5	内分泌・代謝5	同化と異化(1)	長崎県立大・世羅	2講
11	15	月	6	内分泌・代謝6	同化と異化(2)	長崎県立大・世羅	2講
11	22	月	3	内分泌・代謝7	骨代謝・副甲状腺	長崎県立大・世羅	2講
11	22	月	4	内分泌・代謝8	特別講義	久留米大・児島	2講
11	22	月	5	腎・排泄1	体液と浸透圧	内臓機能生理学・中村	2講
11	22	月	6	腎・排泄2	腎臓の構造と機能	内臓機能生理学・中村	2講
11	29	月	4	腎・排泄3	糸球体、傍糸球体装置	内臓機能生理学・中村	2講
11	29	月	5	腎・排泄4	尿細管の機能、再吸収	内臓機能生理学・中村	2講
11	29	月	6	腎・排泄5	尿の濃縮、クリアランス、排尿反射	内臓機能生理学・中村	2講
12	6	月	4	腎・排泄6	動脈圧制御に関わる腎臓・体液システム	内臓機能生理学・中村	1講
12	6	月	5	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	内臓機能生理学・井上	1講
12	6	月	6	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗	内臓機能生理学・井上	1講
12	13	月	3	呼吸3	閉塞性と拘束性疾患	内臓機能生理学・井上	2講
12	13	月	4	呼吸4	ガス交換(酸素の運搬)、ヘモグロビンと酸素飽和度	内臓機能生理学・井上	2講
12	13	月	5	呼吸5	ガス交換(炭酸ガスの運搬)、換気血流比	内臓機能生理学・井上	2講
12	13	月	6	呼吸6	肺循環(肺血流、肺血管抵抗、肺内圧)	内臓機能生理学・井上	2講
12	20	月	3	呼吸7	呼吸調節、呼吸中枢	内臓機能生理学・井上	2講

内臓機能・体液系 I

(1年次・後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
12	20	月	4	酸・塩基平衡1	血液ガス、pH、酸塩基平衡調節	内臓機能生理学・中村	2講
12	20	月	5	酸・塩基平衡2	呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	内臓機能生理学・中村	2講
12	20	月	6	酸・塩基平衡3	酸塩基平衡の腎の代償	内臓機能生理学・中村	2講
1	17	月	4	血液1	赤血球・ヘモグロビン	内臓機能生理学・井上	2講
1	17	月	5	血液2	白血球による生体防御機構	内臓機能生理学・井上	2講
1	17	月	6	血液3	リンパ球による生体防御機構	内臓機能生理学・井上	2講
1	24	月	4	血液4	血小板	内臓機能生理学・辻	2講
1	24	月	5	血液5	血液凝固と線溶1	内臓機能生理学・辻	2講
1	24	月	6	血液6	血液凝固と線溶2	内臓機能生理学・辻	2講
1	31	月	4	体温調節1	基礎代謝と体温調節	内臓機能生理学・井上	2講
1	31	月	5	体温調節2	高体温(発熱とうつ熱)と低体温の病態生理	内臓機能生理学・井上	2講
1	31	月	6	腎・排泄7	腎臓病研究の最前線	内臓機能生理学・井上	2講

医科生物学入門

責任者	氏名（教室）	永山 雄二（原研分子）		
	電話番号	7173	e-mail	nagayama@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	7:30～8:50 毎日		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Introductory Course to Medical Biology		

1. 授業の概要及び位置づけ

生物学や生命科学、ひいては医学の基礎となる生物学を高校の教科書である「生物基礎」と「生物」を使って学ぶ。

2. 授業到達目標

「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

全て講義

4. 教科書・教材・参考書

生物基礎、生物（数研出版）

5. 成績評価の方法・基準等

出席2/3以上が必要。

4/27の試験60点以上で合格。本試のみで、再試は施行しない。

6. 事前・事後学修の内容

カリキュラムに沿って、教科書を使った予習復習をすること。

7. 教員名

永山 雄二（原研分子）、吉浦 孝一郎（原研遺伝）、李 桃生（原研幹細胞）、柴田 恭明（組織解剖学）、篠原 一之（神経生理学）、由井 克之（免疫学）、村井 清人（神経形態学）、井上 剛（分子生理学）、浦田 芳重（先端医育センター）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	C
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	C

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	火	1	基礎生物、生物	生物の多様性と共通性、生体を構成する物質	原研分子、永山	オンライン
4	6	火	2	基礎生物、生物	タンパク質の構造と性質、酵素のはたらき	原研分子、永山	オンライン
4	6	火	3	基礎生物、生物	細胞の構造、物質輸送とタンパク質、情報伝達・認識とたんぱく質	原研分子、永山	オンライン
4	6	火	4	基礎生物、生物	遺伝子情報とDNA、遺伝子情報の発現、DNAの構造と複製、遺伝情報の発現	原研遺伝、吉浦	オンライン
4	6	火	5	基礎生物、生物	遺伝子の発現調節、バイオテクノロジー	原研遺伝、吉浦	オンライン
4	13	火	1	基礎生物、生物	エネルギーと代謝、光合成と呼吸、代謝とエネルギー、呼吸と発酵	原研幹細胞、浦田	オンライン
4	13	火	2	基礎生物、生物	遺伝情報の分配、遺伝子の染色体、減数分裂と遺伝情報の分配、遺伝子の多様な組み合わせ	原研幹細胞、李	オンライン
4	13	火	3	基礎生物、生物	動物の配偶子形成と受精、初期胚の課程	組織解剖学、柴田	オンライン
4	13	火	4	基礎生物、生物	細胞の分化と形態形成	組織解剖学、柴田	オンライン
4	13	火	5	基礎生物、生物	体液という体内環境、腎臓と肝臓	分子生理学、井上	オンライン
4	20	火	1	基礎生物、生物	免疫、免疫とタンパク質	免疫学、由井	オンライン
4	20	火	2	基礎生物、生物	刺激の受容、情報の統合	神経形態学、村井	オンライン
4	20	火	3	基礎生物、生物	神経とホルモンによる調節	神経整理学、篠原	オンライン
4	27	火	1	基礎生物、生物	ニューロンとその興奮、刺激への反応	神経整理学、篠原	オンライン
4	27	火	2	基礎生物、生物	試験	原研分子、永山	オンライン
4	27	火	3	基礎生物、生物	試験	原研分子、永山	オンライン

プレリサーチセミナー

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～3年次・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（グローバルヘルス研究医枠）	単位数	各1単位
科目英語名	Pre research seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 授業到達目標

基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

3. 授業内容（講義・実習項目）

- 1 年次前期：各教室による研究内容等の紹介セミナーを受講する。
- 1 年次後期、2 年次、3 年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し研究活動を行う。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員により必要な資料等を提示する。

5. 成績評価の方法・基準等

- 1 年次前期：出席状況及び課題レポート等により総合的に評価する。
- 1 年次後期～3 年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

配属教室は、1年次前期終了時に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。
また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	E
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	E
IV. コミュニケーション技能	F
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	B

プレリサーチセミナー

(1～3年次・通年)

(1年前期スケジュール)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
4	6	火	7	オリエンテーション 研究内容等の紹介1	オリエンテーション 臨床検査医学	教務委員長	1 講
4	13	火	7	研究内容等の紹介2	肉眼解剖学、組織解剖学	各教室教員による	1 講
4	20	火	7	研究内容等の紹介3	内臓機能生理学、神経機能学	各教室教員による	1 講
4	27	火	7	研究内容等の紹介4	第一病理学、第二病理学	各教室教員による	1 講
5	11	火	7	研究内容等の紹介5	公衆衛生学、感染分子解析学	各教室教員による	2 講
5	18	火	7	研究内容等の紹介6	免疫学、腫瘍医学	各教室教員による	1 講
5	25	火	7	研究内容等の紹介7	法医学	各教室教員による	1 講
6	1	火	7	研究内容等の紹介8	生化学、薬理学	各教室教員による	1 講
6	8	火	7	研究内容等の紹介9	原研医療、原研遺伝	各教室教員による	1 講
6	15	火	7	研究内容等の紹介10	原研病理、原研放射	各教室教員による	1 講
6	22	火	7	研究内容等の紹介11	原研分子、原研幹細胞	各教室教員による	1 講
6	29	火	7	研究内容等の紹介12	原研国際	各教室教員による	1 講
7	6	火	7	研究内容等の紹介13	熱帯医学	各教室教員による	1 講
7	13	火	7	振り返り・配属決め		教務委員長	1 講

地域医療ゼミ（しまで学ぶ地域医療）

責任者	氏名（教室）	永田 康浩（地域医療学分野）		
	電話番号	095-819-7189	e-mail	ynagata1961@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 9：00～15：00		

対象年次・学期	1年次・前期・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（地域医療枠・地域医療特別枠）	単位数	各1
科目英語名	Comprehensive community medicine in remote islands		

1. 授業の概要及び位置づけ

離島・へき地の包括的な地域医療現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。また、多専門職との交流や医師以外の医療・介護・福祉職を目指す学生との共修を通して、多職種協働・連携の重要性を学ぶ。地域住民の方との交流を通じ、地域社会とのコミュニケーション能力を養う。

2. 授業到達目標

- ・上記の理解をもとに、地域が抱える課題に対するアセスメントや問題解決の提案ができる。
- ・他職種の職能と役割、多職種協働の重要性について説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問などを通して、地域包括医療・ケアと多職種連携、住民とのコミュニケーションの重要性について理解を深める。

4. 教科書・教材・参考書

地域医療テキスト 自治医科大学（監修） 医学書院 ISBN978-4-260-00805-1
 国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門 診断と治療社
 （購入は必須ではありません。当講座で貸し出しします。）

5. 成績評価の方法・基準等

出席・態度・発表を加味して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前資料や事前学習会に加え、自分自身で新聞やニュース、地域の情報誌などから広い視野を持った主体的な学習を望みます。

7. 教員名

前田 隆浩（総合診療科）、川尻 真也（地域医療学分野）、延末 謙一（離島・へき地医療学講座）、野中 文陽（離島・へき地医療学講座）、永田 康浩（地域医療学分野）

8. 備考

長崎地域医療セミナー in GOTO 2020年8月23日(日)～8月25日(火)

長崎地域医療セミナー in GOTOへの参加が必須です。地域医療について事前に学習し、自分の意見を持ってからゼミに臨むことが望まれます。セミナーは、基本的に長崎大学医学部と長崎純心大学との共同で開催します。交通手段は、事前に学務係よりフェリーチケットが配布されます。宿泊費の負担はありませんが、地域医療セミナー期間中の参加費については5,000円/人（実費）を予定しています。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

地域医療ゼミ（国境を越えた地域医療）

責任者	氏名（教室）	有吉紅也（国境を越えた地域医療支援機構）		
	電話番号	7774	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～17:00		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（地域医療枠・地域医療特別枠）	単位数	1
科目英語名	Cross-border community health and medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

経済や人の移動のグローバル化によって、地球規模の健康問題がコミュニティレベルの健康に直接的な影響を与えることが、新型コロナウイルス感染症によって如実に示された。そのような危機に対するコミュニティのレジリエンスは、普段のpracticeによって鍛えられるものであろう。グローバルヘルスの視点でプライマリケアや総合診療の概念を学ぶ。

2. 授業到達目標

・上記のマクロとミクロの視点をもとに、地域が抱える課題に対するアセスメントや問題解決に向けた学習につなげる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

国境を越えた地域医療支援機構の臨床教育拠点がある平戸市において、①平戸市の保健・医療・福祉が連携した地域包括医療・ケア、②国内外の他地域の地域ケア、③グローバルヘルスを、合宿形式の実習と講義を通して学習する。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しないが、インターネットや書籍などを利用してグローバルヘルス、SDGs、地域医療、総合診療について調べておくことが望ましい。

5. 成績評価の方法・基準等

出席、合宿参加、レポート提出

6. 事前・事後学修の内容

国境を越えた地域医療支援機構（<https://hekichi-byoinsaisei.net/>）事前に参照しておくことが望ましい。

7. 教員名

有吉 紅也（国境を越えた地域医療支援機構）、杉本 尊史（国境を越えた地域医療支援機構）

8. 備考

夏期休暇中に、平戸で開催する2泊3日程度の合宿形式の集中講義の参加を必須とする。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	C
V. 地域医療・社会医学	B
VI. 科学的探究	C

国際医療ゼミ

責任者	氏名（教室）	高村 昇（原研国際）		
	電話番号	7170	e-mail	takamura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2・1年次：後期、2年次：後期	講義形態	講義
必修・選択	必修（国際保健プログラム）	単位数	各1
科目英語名	Global Health Seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

【授業の概要及び位置づけ】世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特にグローバルヘルス分野における活動を紹介する。

【授業内容】グローバルヘルスに関する教科書、および関連する最新の記事について輪読する。

2. 授業到達目標

本学のグローバルヘルス分野における活動や、現在のグローバルヘルスの潮流について理解する。

3. 授業内容（講義・実習項目）

グローバルヘルス関連の英語教科書を輪読する。また、グローバルヘルスに関連する事項について、それぞれ課題を設定し、プレゼン資料としてまとめる。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前に世界保健機関（WHO）やJICAの活動について、HP等で確認しておく

7. 教員名

高村 昇（原研国際）

8. 備考

原研棟4階研修室にて実施。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	B
II. 医学・医療に関する知識	B
III. 医療の実践	C
IV. コミュニケーション技能	A
V. 地域医療・社会医学	S
VI. 科学的探究	B

熱帯医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	有吉 紅也（熱帯医学研究所 臨床感染症学）		
	電話番号	7840	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日 12:00～12:30		

対象年次・学期	1年次・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修（熱帯医学プログラム）	単位数	1
科目英語名	Introduction of Tropical Medicine		

1. 授業の概要及び位置づけ

授業のねらいは、将来熱帯医学研究医を目指す学生に、熱帯医学における医学研究の重要性を理解させ、熱帯医学に関連する幅広い視野を持たせることにある。その方法として、本学において進行中の医学研究活動を紹介し、本学の取り組みに興味を抱かせる。

2. 授業到達目標

自分の興味をもった熱帯医学研究について、英語で説明できる。

3. 授業内容（講義・実習項目）

熱帯医学に関係する医学研究を実施している本学医学系教室及び熱帯医学研究所教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。

4. 教科書・教材・参考書

特に指定しない。

5. 成績評価の方法・基準等

出席状況、レポート（英文）提出等を考慮して評価する。

6. 事前・事後学修の内容

事前は特になし 事後はレポート提出

7. 教員名

有吉 紅也（熱研臨床医学分野）、吉田 レイミント（熱研小児感染症学分野）、皆川 昇（熱研病害動物学分野）、長谷部 太（ベトナム拠点）、金子 聡（熱研生態疫学分野）、北潔（熱帯医学・グローバルヘルス研究科）、児玉 年央（細菌学）、金子 修（熱研原虫学分野）、濱野 真二郎（熱研寄生虫分野）、山本 太郎（熱研国際保健学分野）、森田 公一（熱研ウイルス学分野）、安田二郎（熱研新興感染症学分野）、南保 明日香（感染症研究共同拠点）、平山謙二（熱研免疫遺伝学分野）

8. 備考

開講時間・場所 火曜日 7校時（16:30-17:30）・グローバルヘルス研究棟 5階 小会議室

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	E
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	D

医学ゼミ

責任者	氏名（教室）	柳原 克紀（臨床検査医学（病態解析・診断学））		
	電話番号	095-819-7574	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日 17:00～18:00		

対象年次・学期	1～2年次：前期・後期、 3～4年次：後期	講義形態	各担当教員による
必修・選択	必修	単位数	各1
科目英語名	Small group medical seminar		

1. 授業の概要及び位置づけ

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教員と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。

2. 授業到達目標

各担当教員による。

3. 授業内容（講義・実習項目）

各担当教員による。

4. 教科書・教材・参考書

各担当教員による。

5. 成績評価の方法・基準等

各担当教員により、ゼミへの出席状況、取り組み等により総合的に評価する。

6. 事前・事後学修の内容

各担当教員による。

7. 教員名

柳原 克紀（臨床検査医学）

8. 備考

授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

- 1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	C
II. 医学・医療に関する知識	D
III. 医療の実践	D
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	E
VI. 科学的探究	E

医学英語 I

責任者	氏名（教室）	トッド・サンダース（感染分子解析学）		
	電話番号	095-819-7059	e-mail	saunders@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火・木・金 13:00-17:00 ※事前アポイントを要する		

対象年次・学期	1年次・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
科目英語名	Medical English I		

1. 授業の概要及び位置づけ

英語基礎力強化とし、速く正確なReading力、正しく深く理解するListening力を養成します。

【Reading】

・文章構造理解 ・スキミングとスキミング ・Reference words ・語、文章の置き換え
他

【Listening】

・文章構造理解 ・記憶保持 ・メモ取り ・時系列、プロセス等の整理 他

2. 授業到達目標

英語基礎力を強化し、速く正確なReading力、正しく深く理解するListening力を養成することを目標とします。

3. 授業内容（講義・実習項目）

対面授業8回、web学習7回の全15回で行います。

4. 教科書・教材・参考書

eラーニング教材を用います。詳細は初回授業時に説明します。

5. 成績評価の方法・基準等

授業への参加状況、eラーニングの受講状況、終了テストの結果を総合的に判断します。

なお、大学全体で受験するTOEIC IPテストのスコアを成績評価の一部に用います。

6. 事前・事後学修の内容

eラーニングの受講は計画的に行うこと。

7. 教員名

トッド・サンダース（感染分子解析学）

8. 備考

特になし

9. ディプロマポリシー（レベルマトリクス）との対応

I. 倫理観とプロフェッショナリズム	F
II. 医学・医療に関する知識	F
III. 医療の実践	F
IV. コミュニケーション技能	E
V. 地域医療・社会医学	F
VI. 科学的探究	F

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座、教員	教室
5	10	月	2	ガイダンス＋入門テスト	web 入門テスト R：20分、L：20分	トッド	2 講
5	17	月	3	授業 1		トッド	オンライン
				Web 1 Reading (1)	・ Reading Skills(基本のスキル、テクニック) ・ Factual&Negative Factual Qs(重要な情報を探す)	—	自宅学習
5	24	月	3	授業2		トッド	オンライン
				Web2 Reading (2)	・ Refarence Qs(表現の置き換え) ・ Purpose/Method/Opinion Qs(著者の意見を読み取る)	—	自宅学習
5	31	月	3	授業3		トッド	オンライン
				Web3 Reading (3)	・ Inference Qs(文から推論する) ・ Sentence Restatement Qs(精密に内容を把握する)	—	自宅学習
6	7	月	3	授業4		トッド	オンライン
				Web4 Reading (4)	・ Sentence addition Qs(文章間のつながりを把握する) ・ Completing Summaries &Chart Qs(文の全体を理解する)	—	自宅学習
6	14	月	3	授業5		トッド	オンライン
				Web5 Listening (1)	・ Listening Skills(基本のスキル、テクニック、メモ取り) ・ Main Topics& Main Purpose Qs(主題を把握する)	—	自宅学習
6	21	月	3	授業6		トッド	オンライン
				Web6 Listening (2)	・ Factual&Negative Factual Qs(事実を聴きとる) ・ Purpose/Method/Attitude Qs(話者の意見を推論する)	—	自宅学習
7	5	月	3	授業7		トッド	オンライン
				Web7 Listening (3)	・ Ordering &Matching Qs(プロセス、時系列を把握する) ・ Complete the Chart Qs(文の全体を理解する)	—	自宅学習
				試験	web 終了テスト R：20分、L：20分	—	